

なぜか 英語が話せないの

会話上達法 第三部

<31>



毎日こつこつ努力しようと語る真崎さん

D o y o u b e l i e v e (i n) g o d ? (神 を 信 じ ま す か) H e d i e d (o f) s t o m a c h a n c e r . (彼 は 胃 がん で 死 っ た) S h e g r a d u a t e d (f r o m) T o k y o u n i v e r s i t y . (彼 女 は 東 大 を 卒 業 し た)

三つの簡単な文例がある。英米人には何でもない表現だが、外国人が「動詞」「プラス」「前置詞」をずらす口に出せるまでには相当の反復練習を要する。筑後地方の若手英語教師で三年前結成した「久留米英語講習会」代表、真崎良幸・第一級英大 学 講 師 さん は 「 実 用 会 話 上 達

のカギは継続努力。毎日、少しでも多くの文章や表現を覚え

英語でモノを考える 反復努力が上達のカギ

実践に役立つよう磨いておろし「とが大切」と指摘する。

真崎講師が英語に興味を持ったのは、中三でアメリカ人英文通を始めたのがきっかけ。「英語はとにかく中断せずに勉強せよ」という恩師の教えを守って、高校時代はBBSクラブに精進置き、NHKのラジオ英語講座は三年間、一度も欠かさず聞き続けた。

「高校のとき、年一回の文化祭でベニスの商人、リヤ王などのシェークスピア劇をやり、長いセリフを覚えたことが実用会話に随分、役立ったんです。」日本人の英語が伸びないのは、完全主義や恥の文化が進歩を阻害しているからだ、といわれる。この点「人前で英語をしゃべるのは度胸がつくし、セリフを少々、間違えても他の表現でカバーしたり、臨機応変の言い換えができるようになる。先に浮かばず、英語だけで直接、会にセリフを覚えるより、言葉の流れ、抑揚を身につける方が重要である。」

上智大学英文科に進学した真崎講師は、シェークスピア研究会に入り「真夏の夜の夢」「ロミオとジュリエット」十三夜」などで多くの役を演じた。セリフを暗記し、原文を読む。会話の自信もついていた。

ところが、外人講師の講義に通うと、全くついていけない。「なにしろ一時間の授業で五十分も進むんです。米国の大学一年生のスピードと聞いてガク然としました。新たな壁に直面して速読練習も始めた。ヒマなときは英語本にかじりつき、四年間で約三百冊を読んだ。

「大学時代は松本亨先生(英語教育者)の影響で、英語の中に生きようなんて決意しました。英語でモノを考える習慣をつけよう」と、必死でした」

例えばswim(泳ぐ)という単語があれば、頭の中でmove, about, in, the waterに置き換える。英語を日本語に訳して理解するのはダメ。日本語が途中、頭に浮かばず、英語だけで直接、理解することが大切」と強調する。また、発音の悪さを気にする人が多いが「独特のアクセント、抑揚を有するインド人の英語も十分通じており、要は、おつかまじ」と積極性が会話上達のカギになる。